

会 議 録

会議の名称	第 6 回飯塚市男女共同参画推進委員会
開催日時	令和 8 年 1 月 27 日（火）13：00～15：00
開催場所	飯塚市役所本庁 2 階 多目的ホール
出席委員	坂無淳委員、吉岡和子委員、寺山治委員、須藤明委員、戸畑典子委員、松本登美子委員、平嶋穂積委員、岡松美千代委員、矢野由香委員、末清淳子委員、篠崎光寛委員
欠席委員	吉原文明委員、野田鹿江委員、道園亜希委員
事務局職員	男女共同参画推進課長、企画担当主査、事業係長
アドバイザー	特定非営利活動法人福岡ジェンダー研究所
会議内容	<p>議題</p> <p>(1) 男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書（案）について</p> <p>(2) 女性の労働状況に関する事業所調査結果報告書(案)について</p> <p>(3) 令和 7 年度提言書（素案）について</p> <p>(4) その他</p> <p>(1)男女共同参画に関する市民意識調査結果報告書（案）について 事務局(福岡ジェンダー研究所) (資料 1-1 について説明)</p> <p>会長 それでは委員の皆様から、御意見を伺いたい。この報告書はホームページで公開するのか。</p> <p>事務局 報告書は、完成後はホームページで公開する。今日の委員意見を受けて、次の会議でもう一度修正したものを確認していただく。</p> <p>委員 41～42 ページ、ほとんどの分野で「地域の役職・公職への就任や立</p>

候補を依頼された場合の対応」として18歳から29歳で「引き受ける」の割合が高い。全体で「引き受ける」の回答が低い中で、この理由についてどう分析するか。

事務局(福岡ジェンダー研究所)

若い方は通常は回収率が低いので、特に関心のある方、男女共同参画や地域に関心のある方が回答された可能性があるかと思うが、詳しいところはわからない。

会長

41ページの「地域団体の役員(自治会役員など)」は、60～69歳が高い。その世代は地域活動をしているので高くなっているのではないかと思う。

委員

47ページの災害に関する調査結果について、ほとんどの項目で前回に比べると減少しているということは、災害に関する男女共同参画の取組が進められているから関心が減少しているのか。

事務局

今の段階での回答は難しい。

委員

私自身は3歳まではやっぱりお母さんが育てた方がいいと思っているけれど、男女ともに大学生とか若い人に反対が多い。この理由の分析が欲しかった。

事務局(福岡ジェンダー研究所)

国の調査では賛成と反対の理由を聞いた調査があったような気がするが、飯塚市ではそこまで質問していないのでわからない。もしかしたら、反対の方は母親だけでなくいろんな方が育てるほうが良いと思っているのかもしれない。

委員

男女の職場での扱いについて、回答に「分からない」が増えている。これは男女の扱いについて差がなかったら「分からない」と回答しているのか、その意識が定着してきているから「分からない」になっているのか。

事務局(福岡ジェンダー研究所)

断定はできないが、全体的な傾向として、飯塚市に限らず他の自治体の調査でも分からないことは分からないと回答する人が増えている印象がある。

委員

今回、性別の回答に「どちらでもない・回答しない」や、全体としても「該当しない」という回答をされた理由については、今後分析して内容をどう扱っていくのか。職業や、収入、DV 被害など、政策的に手を差し伸べる対象として考える必要があるかと思った。

事務局(福岡ジェンダー研究所)

近年、性別をこういった調査で尋ねる際に、男女どちらでもないという方やトランスジェンダーの方への配慮の一つとして、聞き方を工夫するということがあり、こういう聞き方をしたが、その中身が分からないので分析するのは難しい。

委員

71 ページで「どこにも相談しなかった」が今回 70%近い。これは非常に問題だ。

事務局

さらに相談窓口の周知に努める等、調査結果を今後の取組に活用していきたい。

会長

121 ページからの自由意見は最終的なものとして掲載になるのか。

事務局

調査報告書にも掲載し、ホームページにも公開する予定で考えている。

(2)女性の労働状況に関する事業所調査報告書(案)について

事務局(福岡ジェンダー研究所)

(資料 1-2 について説明)

委員

19 ページの育児休業取得状況、35 ページの介護休業の取得状況中、「育児・介護休業を開始した人のうち、退職した人」がいると回答した業種は何か。

事務局（福岡ジェンダー研究所）

細かい集計結果を確認した上で、次回報告したい。

委員

回答のなかった 700 社の業種は何か。制度の問題などは事業所規模の小さいところできていないのか。今後、市として周知するためにはどのようにしていくのか。また、ハラスメントの問題について、研修は少しずつ行っているというところが増えてきているが、本来そういう研修はやらないといけない。これを分析しそういう問題を今後どのように進めていこうと考えているか。

事務局

今回御協力頂いた商工会、商工会議所からは従業員 5 人以上の事業所のデータを頂いたが、何人従業員がいるという細かいデータではない。未回答の会社の業種や規模などの分析はできない。ハラスメントの研修については、現在もプランの中にも取組内容として上がっているが、次期のプランにも取組として関係課と協力しながら進めていく。

会長

商工会議所からの情報よりもっと大きな事業所に関するデータはないか。どれぐらい小さな事業所が回答したのかというのが、有効な施策をする際には考えてもいいかもしれない。

委員

93 ページの行政要望、全部そのまま載せるのか妥当かどうか。自由意見ではあるが、そのままの形で載せていいのかと思った。

事務局

報告書に全て載せるのか、抽出して載せるのかなど、検討していきたい。

(3) 令和 7 年度提言書（素案）について

事務局
(資料2について説明。)

委員
4 ページの提言の地域活動団体におけるまちづくり協議会っていうのと、12 地区まちづくり協議会は同一のものなのか。

事務局
同一のもので、飯塚市内に 12 地区のまちづくり協議会がある。

会長
管理指標の表現と合わせて「12 地区」というのを全部取って、「まちづくり協議会の女性役員の割合が 20%未満の地区数は、12 地区中令和 7 年度に・・・」でよろしいか。

(異議なし)

委員
提言の 2 番目の、補足説明の 5 行目の、「恋人など親しい関係にある(あった)人からの暴力である」という一文は、被害者側に焦点が当たっている。する人にも、受ける人にも、そして、見て見ぬふりをする人にもならない子どもたちを育てていくための提言なので、「～から」や「～への」を使わず、どちらにも当てはまる表現として「また、交際している(していた)人同士で起こる暴力はデートDVといい、ジェンダーに基づく暴力で、若年層においても深刻な問題になっています。」としてはどうか。

会長
「～からの」というと被害者だけに限定されてしまうから、「～から」とか「～への」を使わないように変えるというご意見だが、委員の皆さんよろしいか。

(異議なし)

委員
今のご意見の中で、ジェンダーに基づく暴力っていうのは、これは通じるのか。

委員
現プランの中にはジェンダー平等という言葉は使っていないが、今の子どもたち、若い人たちの認識の中には、定着しつつあるので、この言葉を入れてもよいのではないかと思う。

委員

2 ページ提言の 2 番目は性暴力やデート DV ということで、前提が 2 点挙げられている。一方で、もともとはあらゆる暴力ということで、性暴力に限らない問題、課題提起があっている。ジェンダーに特化したような課題提起をしていくのか、あらゆる暴力ということで、全ての暴力を対象と考えなくていいのか。プランでは重点目標 3 であらゆる暴力の根絶というのがある。

委員

もちろんあらゆる暴力に対してというのも必要なことであるが、本年の提言は性暴力やデート DV ということで考えていいと思う。

また、「子ども性暴力防止法」が 2024 年 6 月に成立しており、2026 年 12 月 25 日に施行されるということで、子どもたちを守ろうという気風も出てきているのでそれに特化した方がより焦点が定まる。

会長

1 ページの 2 行目、「現プランの全項目が男女共同参画の推進に重要なものですが、推進委員会での検討の上、今回特に以下の 3 点を市長に対して提言します。」とし、今回、この推進委員会では今これが特にといいようなことを記載しているので、あらゆる暴力というのを落としているわけではないが、やはり入れたほうがいいということであればどこに入れるか。

委員

3 ページの一番上を「子どもたちがあらゆる暴力、特に性暴力やデート DV」として、今回、特にここを取り上げたというふうにしてはどうか。また、補足説明のところで法律の説明を加えてもいいのかなと思った。

委員

提言の 3 番目「施策を検討・実行してください。」と市長に提言しているけど、難しい問題だと感じた。今度はどういうふうになされていくのだろうと思う。

会長

那珂川市で、女性が自治会長になった場合の助成金支給など、実際にやるかどうかは別として、提言には他市町村の手法を参考にしてくださいという書き方しかしていない。今の点についてご意見は。

委員

今回の調査結果にあらわれているが、女性ご本人が自分には能力がないとか、役員になりたくないとかいう気持ちをお持ちの方がいらっしゃる方がまずネックだと考えている。施策の中で、手立てをきちっと構築していくということをもっと強調したほうがいいのではないかと。「参画できるようより有効な市の支援体制を構築ください。」としてはどうか。

会長

【現状値と目標値】の表に記載している「まちづくり協議会における女性役員の登用率」については、管理指標ではないので表からは削除し、4ページの記載を「進捗管理において担当課が定めた目標値の」とした方がいいと思う。

委員

【現状値と目標値】のところで管理指標のまちづくり協議会の女性役員の割合が20%未満の地区数6か所、0か所という表記が非常にわかりづらいと思う。

会長

たしかに分かりにくい。自治会長の女性何%や、役員が何%など、次回の管理指標をつくる時はわかりやすい目標値に変えたほうがよい。

委員

管理指標に基づいたより分かりやすい指標の策定に踏み込んでもいいと思う。

会長

次回以降の進捗管理の時に、もっとプランに基づいてわかりやすい指標をつくってほしいということと、そもそも管理指標がわかりにくいので次回管理指標を立てるときにはもっとわかりやすいものにしてほしいということで、今の提言書ではこの書き方でよろしいか。

(異議なし)

委員

2番の提言の補足説明の中に何度も「男女共同参画の視点に基づいて」とあるが、先ほど言ったように子どもたちの中では「ジェンダー平等」という言葉自体が既に広がりつつあるので、現プランにはない言葉ではあるが、「男女共同参画・ジェンダー平等の視点」と記載してはどうか。

会長

提言2のところで「男女共同参画」の箇所をすべて「男女共同参画・ジェンダー平等」とするという提案だがどうか。

(異議なし)

委員

一つ目の提言に「市長のリーダーシップの下で」と書いてあるが、その他の提言には入っていないが、三つとも「市長のリーダーシップの下で」なのであれば、最初の4行のところに入れてはどうか。

	<p>委員 3 ページ 8 行目「どのように助けることができるかを知ること子どもたちにとって重要です。」とあるが、DV やいじめなどに直面したときに、子ども同士で助け合うのではなく親や教職員に事情を伝えて、大人が助けることが必要だと感じる。ここは「どのような行動をとるべきか」として、直接お子さんが助けることを求めているのではないということがわかるような書き方の方がいいと思う。</p> <p>委員 一番の提言の「リーダーシップ」というのは人事権の発動ということ。元々市長に対しての提言書なのですべて市長にアピールしたいという趣旨はすでに込められていると思う。</p> <p>会長 「市長のリーダーシップの下」は、あえて 1 番だけつけるということによろしいか。 もう一つが 3 ページの補足説明の「どのように助けることができるかを知ること」を、「どのような行動をとるべきかを知ること」にするということによろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>委員 2 番目の提言は教育の問題が出てくるので、これは市長に対する提言書であるが、教育長にもきちんと伝わるようお願いしたい。</p> <p>(4) その他</p> <p>事務局 次回の会議日程は 2 月下旬から 3 月上旬開催予定。</p> <p>質疑等なし</p>
	<p><当日配布> 本日の次第 ○本日配付資料として 資料 1-1 男女共同参画に関する市民意識調査報告書(案)について 資料 1-2 女性の労働状況に関する事業所調査報告書(案)について 資料 2 令和 7 年度提言書(素案)について 資料 2-1 第 2 次飯塚市男女共同参画後期プラン進捗管理</p>
公開・非公開の別	<p>① 公開 2 一部公開 3 非公開 (傍聴者なし)</p>

その他	
-----	--